

第1回 国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会議事抄録

日時：2024年12月16日（月） 14時13分～15時50分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、石原安野委員（Zoom）、河野孝太郎委員、高橋慶太郎委員、濤崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、齋藤正雄委員、竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）高田昌広委員、渡邊誠一郎委員

（台内）生駒大洋委員、都丸隆行委員

陪席：

（台内）土居守台長、藤田常事務部長、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長、飯田直人国際学術係長（Zoom）

1. 確認

1.1 出席者確認

出席者の確認を行った。

1.2 サイエンスロードマップ策定委員会規則

委員会規則の確認を行った。

また、委員会規則に基づき、台長から本委員会の委員長に本原顕太郎委員が指名されたことの報告があった。続いて、委員長から藤井友香委員が副委員長に指名され、本委員会にて了承された。

1.3 サイエンスロードマップ策定委員会諮問事項

本委員会への諮問事項について確認を行った。

2. 報告と議論

2.1 将来シンポジウム

2.1.1 各提案へのフィードバック案

本委員会委員が作成した各提案へのフィードバック案について説明があり、最終確認を行ったうえで提案者へ送付することとした。

また、各提案者へ共通して伝えるべき事項について確認を行った。意見交換の結果、提案書のページ数についてフロンティア事業以外は10ページ程度以内、フロンティア事業は20ページ程度以内とし、参考資料を付けるかは提案者の任意として依頼することとした。

（主な意見交換）

－提案書をどれくらい書いてもらうのかは方針を示すのか。何も無いと書く側はどこまで詳しく書くべきなのか迷ってしまう。

－これまでに国際外部評価などで使った資料を基に提案書を作成するところもある。

短期間で作成する必要があることから、提案する側に任せても良いのではないか。

－ある程度制約が無いと膨大なページ数になってしまう恐れがある。必ず確認すべきところは10ページ程度とし、参考資料を制限せずに追加してもらおうというのではどうか。

－プロジェクトのサイズによってサイエンスゴールの数も異なる。フロンティア事業は裾野の広さも大事であり、(限られたページ数で)そこをどう表現すれば良いのか。

－フロンティア事業の Science-use-cases は、各提案がフロンティア事業の中で実施できるのかの議論のリファレンスとして大事であり、多く載せてもらったほうが良い。

－提案書のページ数は、フロンティア事業以外は10ページ程度以内、フロンティア事業は20ページ程度以内とする。また、提案書の中での割り振りは提案者に任せ、参考資料があれば任意で付けてもらうこととしたい。

2.2 ヒアリングの開催形式及び開催日程について

提案者へのヒアリングを3月から6月にかけて実施し、各回1時間での開催を想定していることについて説明があった。

続いて、ヒアリングの開催形式に関し意見交換を行った結果、各提案が期待する予算でグループ分けを行い、本委員会委員が分担して実施することとした。グループ分けと委員の分担については委員長が案を作成し、メールで事前に回付したうえで次回の本委員会で審議することとした。

また、ヒアリングに出席できない委員は、録画を視聴し必要に応じメール等で質問する対応も可能とした。

(主な意見交換)

－ヒアリングはプレゼンテーションにあまり時間を割かず、提案書を読み込んで事前に質問票を送付し、論点を絞ったやり取りを行ったほうが生産的である。

－全ての提案をフラットにヒアリングするのではなく、サイエンスロードマップを作成するにあたりポイントとなる項目を定めたうえで、競合するグループごとにまとめ、委員の分担を決めてヒアリングを実施するのが現実的である。

－期待する資金ごとにフロンティア事業、運営費交付金、外部資金というグループ分けが考えられる。運営費交付金のところは重たい仕事になるので、強弱を付けるやり方もあるのではないか。

－サイエンスロードマップは運営費交付金でキャップをすることになる。提案の全体予算はともかく、運営費交付金をいくら要求しているかという観点でグループを分けても良い。

－ヒアリングにリアルタイムで出席できない場合でも、事前に提案書を見て質問票を出し、録画を見ることで回答を確認できる。更に質問が出た場合でもメールベースで行うことでよいのではないか。

2.3 SRMの更新および長期的な整備について

サイエンスロードマップの更新と長期的な整備の必要性について説明があり、意見交換を行った。

意見交換の結果、ヒアリングに向けサイエンスロードマップの大枠のイメージを委員間で共有するため、委員長、副委員長及び国立天文台執行部で案を作成することとした。

(主な意見交換)

ーサイエンスロードマップには予算要求のタマとして台長が持つておくべきものという側面もあり、一定の頻度(3年程度)で更新していく必要があると考えている。

ー運営費交付金のキャップを厳密に考慮するのであれば、新たに追加するものがあれば、その分落とすものもあるということか。

ー今回は第5期中期計画期間の運営費交付金を視野に入れた検討だが、その次の中期計画期間でも同じ議論になるので、そこに向けた頭出しという位置付けもある。どこまではみ出すかは本委員会の見識が問われるところ。

ーヒアリングに入る前に、これから本委員会が作成するロードマップのイメージを確立させた方がヒアリングの効果が上がるものと思う。

ー項目建てなど大枠のイメージを作る必要がある。委員長と副委員長、執行部にもサポートしてもらい案を作成したい。

ーこれまでも議論のあった提案の統合を促すとすると、どの段階になるのか。

ー提案書が出たところで全体像が見える。1回目のヒアリングで統合できるかの情報を集め、勧告を出すことはあり得る。

ーサイエンスロードマップのスコープから外すかどうかは1回ヒアリングを行ってから判断するのか。

ースコープから外す場合でも、提案書を確認したうえで判断すべき。載せないにしても、納得を得られるしっかりとした理由を説明する責任があり、意思疎通を図る場としてもヒアリングは行ったほうが良い。

2.4 SRM委員会ML作成について

本委員会のメーリングリストを作成することについて、本日欠席の委員も確認のうえ作成することで合意された。

2.5 2025年2月以降の開催日程について

本委員会の2月以降の開催日程について、可能であれば2月中に1回開催し、3月以降は複数回のヒアリングを毎月開催していくことについて合意された。

以上